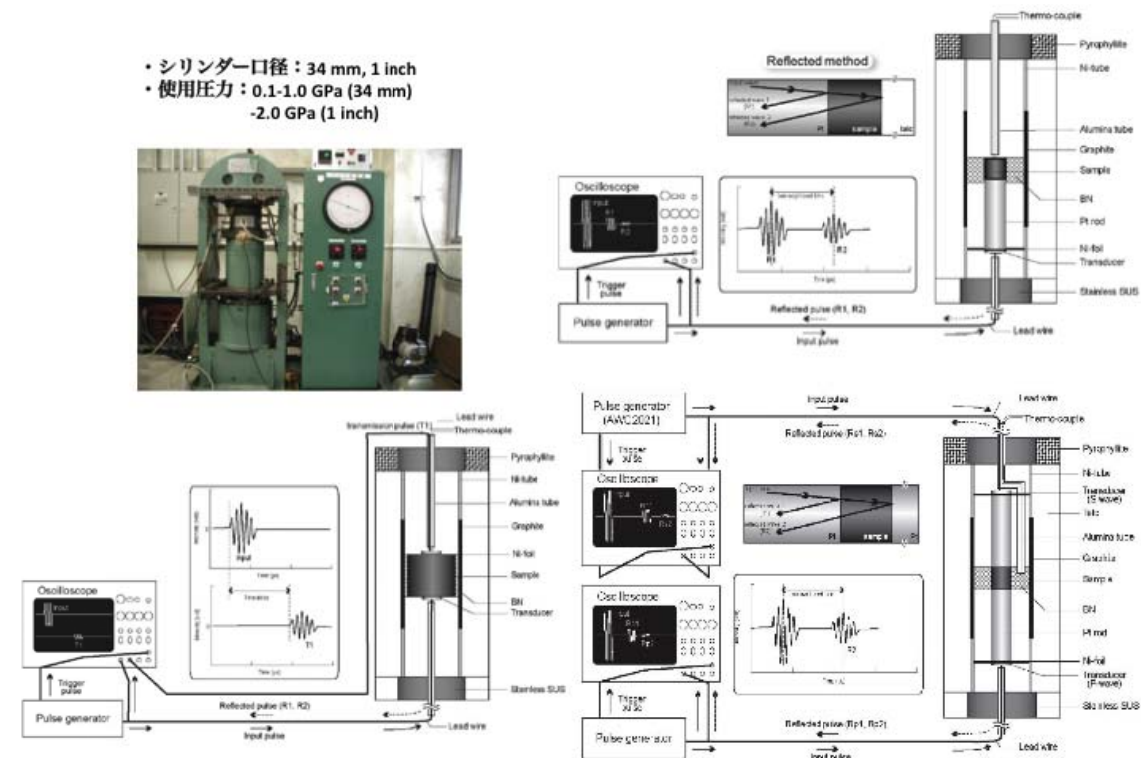


B2. 関東下の構成岩石モデルの構築（横浜国立大学）

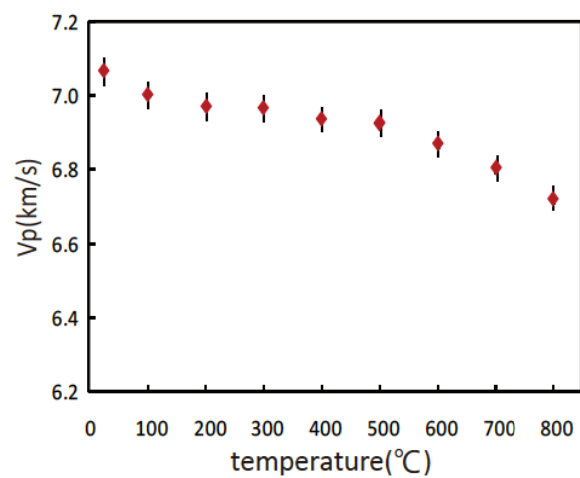
地殻構成岩石の解明のための調査研究

高温高压下での岩石の弾性波速度実験

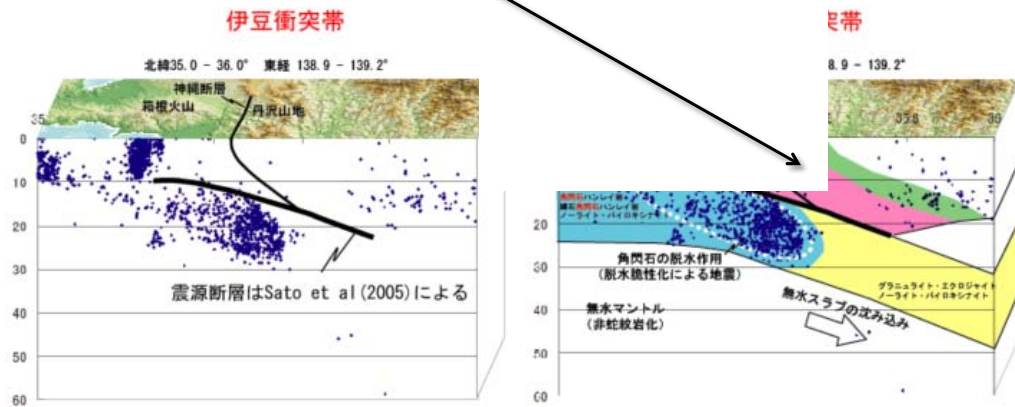


弾性波速度測定実験

高温高压条件下での角閃石はんれい岩の P 波速度



関東地震震源断層上の構成岩石
 トーナル岩 ($\text{SiO}_2=60\text{wt}\%$)
 構成鉱物 (石英25vol%,斜長石50vol%,角閃石等の有色鉱物25vol%)



海洋性島弧に由来する丹沢山地に産する岩石を対象として弾性波速度測定実験を行った。海洋性島弧地殻深部に由来する丹沢深成岩類の弾性波速度データセットを構築した。また、得られた弾性波速度に関する基礎データセットに基づき、首都圏西部に沈み込むフィリピン海スラブおよびその近傍の地殻構成岩石に関する初期モデルを得た。北部伊豆小笠原弧の下部地殻上面は角閃石はんれい岩で構成される。北部伊豆小笠原弧の中部地殻構成岩石は $\text{SiO}_2=60\text{wt}\%$ のトーナル岩で、その構成鉱物は石英25vol%,斜長石50vol%,角閃石等の有色鉱物25vol%であると推測される。この岩石が伊豆衝突帯における関東地震震源断層上の構成岩石と推測される。